

病院担当理事

佐古 伊康



KYOTO
UNIVERSITY
TOPICS

京都大学医学部附属病院 基本理念

- 1 患者中心の開かれた病院として、安全で質の高い医療を提供する。
- 2 新しい医療の開発と実践を通して、社会に貢献する。
- 3 専門家としての責任と使命を自覚し、人間性豊かな医療人を育成する。

新病院整備推進室

医学部附属病院の基本理念の下、経営的側面を視野に入れた新病院整備を推進するために設置された新病院整備推進室は、老朽化した病棟を再構築し、患者さんを中心とした診療体制重視の新病院建設を推進するため、基本ソフトの作成、医療法上の整合性、債務償還計画等を総合的に計画・実行することを目的としています。

医学部附属病院の基本理念に基づく中期目標・中期計画に沿って、実績の概要を述べます。

さらなる医療サービスの向上へ

医療サービスの向上や経営の効率化を図りました。例えば、(1) 医療情報システムの更新に伴い、平成17年1月から新しい電子カルテシステムを導入し、オーダーリング機能を段階的に拡大しています。新病院整備推進室を設置してアメニティ改善の検討に入りました。(2) 地域連携とネットワークの構築により、医療サービス向上と社会連携を推進しました。例えば、紹介患者予約システムを導入するとともに、病病・病診連携を推進する地域医療連携室を設置しました。公開市民講座・公開シンポジウムなどを開催しました。

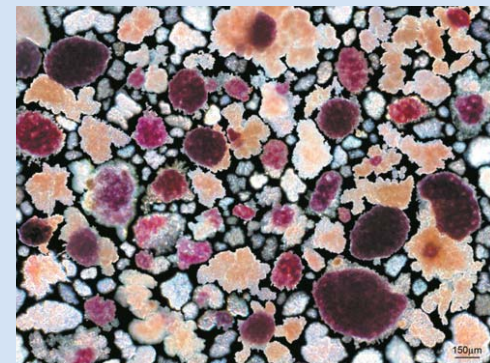
そして、良質な医療人を育成するために医学部に設置された医学教育推進センターと協力し、平成16年度から導入された新卒後臨床研修制度に対応する研修プログラムの作成・見直しなどにより、卒前教育のみならず卒後教育の充実に努力しました。医師以外の医療職に対しても臨床実習研修検討委員会を設置し、医療の質の向上に努力しました。

新医療の発展

研究成果の診療への反映や先端的医療開発には引き続き意欲的に取り組み、関係部局と協力・連携し、新医療の創生と高度医療・先端医療の充実発展に努力しています。例えば、移植医療と再生医療を中心とした高度先端医療の研究開発を進めており、世界的レベルでの新医療の発展に努めました。なかでも、平成16年6月7日には生体肝移植は1,000例に達し、平成16年4月7日には国内初の心臓死ドナーからの膵島移植を実施し、年内には9例に達しました。平成17年1月19日には世界で初めての生体膵島移植を実施しました。また、医師主導型治験の推進に向けて治験管理センターの整備を図りました。

世界初 生体膵島移植

膵島移植とは、重症の糖尿病でインスリン分泌能力がほとんどない患者さんに、膵臓からインスリン分泌担当の細胞の集まりである膵島を分離し、点滴の要領で肝臓へ移植する、侵襲の少ない細胞治療です。今回の生体膵島移植は膵臓の提供が生体ドナーからで、世界で初めての成功例となりました。



生体ドナーから提供された膵島

手術中の様子



膵島移植チーム

紹介患者予約システムの導入

予約および受付等に対応する事務体制の整備を行い、他の医療機関との連携を推進しました。その結果、患者紹介率が平成16年10月から12月にかけての3カ月間連続して、上位の加算基準である50%以上を達成し、平成17年2月より病院紹介患者加算3の適用が可能となり、財政基盤の強化につながりました。

卒前卒後の医学教育の充実

卒前卒後の医学教育を充実させるため、医学研究科に「医学教育推進センター」を設置し(平成16年4月)、専任の教員を2名配置しました。

卒前教育については、同センターを中心として、カリキュラムの整備を進めています。

卒後教育については、医学部附属病院が同センターとの協力の下に、豊富な症例数とクオリティコントロールを生かすことにより十分な臨床経験が得られる卒後臨床研修プログラムを策定し、研修医を募集しました。その結果、研修医マッチング成立者率100%の成績を得ました(参考:全国の大学病院平均約70%)。

高度移植医療の先導的役割

平成16年度末までに、脳死肝移植15例、脳死肺移植4例、脳死小腸移植1例、膵島移植11例などを実施しています。

また、特に生体肝移植については、平成2年6月に初めて実施して以来、平成16年6月には1,000例目を実施するなど、世界で先導的役割を果たしています。

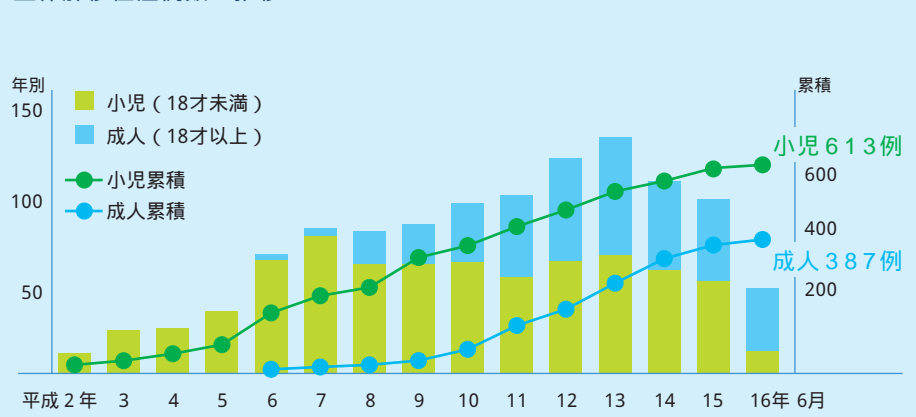
病院運営にあたり

法人化に伴う病院組織のあり方委員会を設置しました。適切な医療従事者等の配置に向けて、病床再配分および人員の適正配置に関する検討プロジェクトチーム委員会を設置し、基本方針をまとめました。しかし、実行は平成16年度の収支実績をふまえて、平成17年度の新執行部に委ねられました。

また外部研究資金その他の自己収入の増加、ならびに病院運営の効率化と運営体制の強化等を通じて、自己収入の安定的確保に努めました。例えば、医薬品を中心とする在庫の見直し、保留レセプトの集中的処理、在院日数28日以内、年間病床稼働率81%超、紹介患者率50%超による診療報酬加算などを通じた収益向上によって、平成16年度会計収支では黒字が達成されました。

自由な学風は、京都大学の教育研究のバックボーンです。健全な経営は、栄えある伝統を継承して良質の教育研究を推進する糧です。法人化直後の現在、経営上、自律への意識覚醒、とくに意思決定メカニズムと責任の明確化、大学の使命に即した医療の差別化と効率化等には、残された課題が少なくありません。

生体肝移植症例数の推移



病院運営

医学部附属病院の経営改善を図るため、「収支計画と実施方策」を策定し、次のように収入確保・支出削減に努めました。

(1) 収入の確保

病床稼働率の目標値の設定、空床病床管理要項の制定などによる病床稼働率の向上、紹介患者予約システムの導入などによる患者紹介率の向上および診療報酬請求漏れの精査などによる収入の確保

(2) 支出の削減

建物設備維持保守費の削減、外部委託費等の見直し、医療材料および薬品購入費の削減などによる支出削減

看護実践開発センターの設置

看護部と医学部保健学科が共同して、安全で質の高い医療を提供することを目的に、新しい看護技術の開発・研究に取り組むための看護実践開発センターを設置しました(平成16年4月)。同センターでは、地域医療機関との連携を強化するとともに、新しい看護技術や基準についての情報提供を行っていくことにしています。



院内コンサート

入院患者さんへ「憩いのひととき」を提供するため、平成7年から毎年、事務部・看護部による実行委員会が企画している手作りのイベントで、京大病院の恒例行事となっています。



研究成果の診療への反映

医学部附属病院探索医療センターにおいて、新医療開発のため、他機関や関係部局との協力・連携の下に、流動プロジェクト6件を推進しました。

採択プロジェクト	採択年度
網膜の再生医療プロジェクト	平成13年度
グレリン創薬プロジェクト	平成13年度
HGF肝再生医療プロジェクト	平成14年度
臍細胞再生医療プロジェクト	平成14年度
チオレドキシシンプロジェクト	平成15年度
重症心不全への細胞移植プロジェクト	平成15年度

医療開発管理部の設置

医学部附属病院で研究開発された新規医療薬候補・デバイス等の臨床開発を着実に進め、実用化を促進するために医療開発管理部を設置しました(平成16年4月)。具体的

な業務としては、新しい医薬、医療技術等の実用化に関わる情報の収集・分析を行い、特許の確保および事業化戦略を立案することとなっています。

外来患者延数と1日平均患者数の推移

